

C) 普及啓発等を通じて新たな拡散を防止する種類

21

外来ユリ(タカサゴユリ、シンテッポウユリ)

ユリ科 *Lilium formosanum* ほか

原産地：タカサゴユリは台湾

生態系被害防止外来種リスト：その他の総合対策外来種

特徴

タカサゴユリは台湾原産。在来種テッポウユリとタカサゴユリの園芸交雑種がシンテッポウユリ。いずれも自家和合性をもつため1株からでも増殖するほか、発芽から開花・結実まで1年以内と成長が早い。

葉：いずれも葉は細長い。幅4~13mmで長さは15cmほどになる。

花：テッポウユリによく似た花を咲かせる。タカサゴユリは花の基部と花筒の表面に紅色の筋が入ることがある。シンテッポウユリではこの筋が入らないか、非常に薄い。

繁殖：自家和合性を持つため、自身の花粉で受粉・結実する。また発芽から開花・結実まで一年かからないとされている。ユリ根がバラバラになると、それら一つずつからも発芽するため注意が必要。



影響：在来種との競合が懸念されるほか、テッポウユリやウケユリなどの在来種との雑種が形成されるなど遺伝子汚染が懸念される。

侵入状況：市街地、集落周辺を中心に低地部で侵入が見られるが、一部山域でも侵入が確認されている。

対策状況：山域の生育地点では継続的な防除作業を実施している。

防除のコツ：花期前後以外は地上部がないため、発見しづらい。花期(7月頃)に地下のユリ根まで丁寧に掘り出す必要がある。